第３０回サマーコンサート in 志木に出演する

２０１７年７月９日(日)、第３０回サマーコンサート in 志木が、志木市民会館パルシティを会場として開催された。

今年は、合唱９団体、器楽８団体、計１７団体が参加した。(別添“チラシ”参照)

今年のサマーコンサートが３０回目にあたることから、例年より早く年初からプレ実行委員会を開催し、企画案を練ってきた。今までサマーコンサートに参加したことのある団体、新規の団体、グループに声を掛けたが、それぞれ事情があって参加数は、大幅に増えなかった。結果として、参加団体数は昨年とほぼ同じになった。

そのなかでも、初参加として、器楽の部で、サックス演奏とニューフォニアム＆テューバアンサンブルがあった。また、合唱・声楽の部では、ソプラノのデュオの初参加があった。

残念ながら、常連の慶應志木高校器楽部は、他の演奏会とスケジュールが重なり不参加となった。

３０回を記念し、会場展示では、過去のサマーコンサートの演奏中写真や過去のプログラム及び今年の参加団体の紹介パネルを展示し、３０年間のサマーコンサートの歩みを来場者と一緒に振り返った。また、演奏プログラムにおいては、女声合唱、男声合唱において、各２団体による合同演奏が企画され、例年とは違った演奏を楽しんだ。

我が志木グリークラブは、１２番目に出演し、関本裕さんの指揮で、「歌え若人(Freie　Kunst)」「からたちの花」「佐渡おけさ」の３曲を演奏した。

また、３０周年特別企画として、ドン・キホーテ男声合唱団と「ピエロ」「最上川舟唄」を合同演奏した。

当日は、９時に志木市民会館ホールに集合し、体操、声出しの後、ステージリハーサルを行った。歌い慣れた会場ではあるが、ステージでの並び方や立つ位置によってお互いの声が、全く聞こえないことがあるので、当日のメンバーの状態と響きを確認して、本番に備えた。

午前中なので、喉の調子を気にしながら、リハーサルを行った。２０分間のステージリハーサルの後は、ドン・キホーテ男声合唱団がリハーサルを行った。それに引き続き、グリークラブとドン・キホーテの合同リハーサルを行い、合同演奏曲の「ピエロ」と「最上川舟唄」を練習した。

今年のサマーコンサートは、１２時に開演し、１部と２部の構成で行われた。

志木グリークラブは、上述の３曲を演奏した。

１曲目の「歌え若人 (Freie　Kunst)」は、男声合唱では定番の曲である。

スイスの Arlesheim(アーレスハイム)に生まれた作曲家 Joseph Hartmann Stuntz (1792-1859)が作曲した。ウィーンで音楽を勉強し、ミラノやベニスの歌劇場向けにオペラを何曲か作った後、ミュンヘンに落ち着いた。ちなみにウィーン時代の Stuntz の先生は、舞台やオペラの「アマデウス」でモーツアルト暗殺の黒幕とされたアントニオ・サリエリである。1826 年には宮廷の首席音楽監督となり、オペラや宗教曲を作曲しそこそこ成功した。本領はポピュラーソングで発揮され、

彼が活動した頃はドイツ男声合唱の黄金期とも言える時期で、Mendelsohn, Kreutzer, Silcher、Zöllner などとともに活躍した。

作詞のウーラントとは Johan Ludwig Uhland (1787-1862)のことで、シュヴァーベン地方の出身。詩人であると同時に法学者・政治学者でもあった多才な人で、様々な分野に関心を示し、ドイツの古い民謡・伝説・英雄叙事詩を発掘するとともに、自らもロマン主義的な抒情詩や「市民的世界への内的・精神的推移を表した」詩をよんだ。Freie Kunst は彼の最も有名な詩の一つで、1813 年に出版された Deutscher Dichterwald（ドイツの詩の森)に収録された。

この歌「Freie Kunst」は、ドイツ語で歌われることが多いが、我々お爺さん達にとっては、ドイツ語は何回やっても物にできない。そこで、得意とする日本語の訳詞で歌うことにした。訳を行ったのは、明本 京静（あけもと きょうせい、1905 年 3 月 23 日 – 1972 年 10 月 17 日)、日本の作詞家、作曲家。本名、明本教成である。青森県黒石市出身。旧制弘前中学（現・青森県立弘前高等学校）卒。東京大学工学部中退。 近衛秀麿に師事し、新交響楽団（NHK 交響楽団の前身）でベートーヴェンの「第九」のテナー独唱者となったことがある。

「歌え若人（Freie Kunst)」の歌詞は、以下のとおり。

Singe, wem Gesang gegeben	歌えいざ　若人み空は晴れぬ
in dem deutschen Dichterwald	散り行く白雲真白き火影
Das ist Freude, das ist Leben	一つにかようは　歌の故郷
wenn's von allen Zweigen schallt	いざや諸共に歌い進まん
Nicht an wenig stolze Namen	若き日の胸よ　歌の翼よ
ist die Liederkunst gebannt	声の限り　我が歌を　歌え歌えや
ausgestreuet ist der Samen	
über alles deutsche Land	

Deines vollen Herzens Triebe	歌えいざ　若人陽も輝きぬ
gib sie keck im Klange frei	陽炎揺らめく　黄金の稲穂
Säuselnd wandle deine Liebe	遥かに霞むは　み空か雲か
Donnernd uns dein Zorn vorbeil	いざや諸共に歌い進まん
Singst du nicht dein ganzes Leben	若き日の胸よ　歌の翼よ
Sing'doch in der Jugend Drang	声の限り　我が歌を　歌え歌えや
Nur im Blütenmond erheben	

この曲を歌う時に気をつけなければならないところは、付点８分音符の次に１６分音符があり、また、複付点４分音符の次に１６分音符がきて、楽譜通り歌うのは結構難しい曲である。
そこを上手く熟さないとこの曲の良さが発揮できない。何度歌っても難しい曲である。

2 曲目の「からたちの花」は、作詩　北原白秋、作曲　山田耕筰、編曲　林　雄一郎の男声合唱曲の名曲である。

「からたちの花」は、北原白秋作詞、山田耕筰作曲の日本の童謡である。文部省唱歌。2007 年（平成 19 年）に日本の歌百選に選出されている。同名の映画やテレビドラマも作られた。

山田耕筰と北原白秋は 1922 年（大正 11 年）に雑誌『詩と音楽』を創刊するなど親交があり、多くの歌曲を共作している。そのような関係の中から、1925 年（大正 14 年）にこの歌が雑誌『女性』に発表された。耕筰は幼い頃養子に出され、活版工場で勤労しながら夜学で学んだ。耕筰は自伝において、工場でつらい目に遭うと、からたちの垣根まで逃げ出して泣いたと述懐している。この歌は耕筰のこの思い出を白秋が詞にしたものである。

からたちの花が咲いたよ。
白い白い花が咲いたよ。

からたちのとげはいたいよ。
青い青い針のとげだよ。

からたちは畑の垣根よ。
いつもいつもとほる道だよ。

からたちも秋はみのるよ。
まろいまろい金のたまだよ。

からたちのそばで泣いたよ。
みんなみんなやさしかつたよ。

３曲目の「佐渡おけさ」は、新潟県を代表する民謡の一つで、作曲は、清水脩である。
初谷先生の指導は、伸びやかにサラッと牧歌的に歌う。４分の２拍子なので、アクセントを１拍目におき、１６分音符と付点８分音符をくっつけて歌うようにとの指示である。
P、mf、SemprePP、f、ff と強弱とアクセント、テンポ感をもって、抜くところとシッカリ出すところの区別、転調のところの音程を確実に、掛け声とメロディとの掛け合いをタイミング良くと指導を受けた。

ここで、「佐渡おけさ」のルーツをみてみる。「佐渡おけさ」は、佐渡で生まれた民謡ではない。おけさのルーツは、熊本県天草市の牛深港（うしぶかこう）に伝わる酒席の騒ぎ唄である「牛深ハイヤ節」と言われている。江戸時代の終わり頃、日本海では、北海道がまだ“えぞ（蝦夷）”と呼ばれていた江差地方と大阪・京都の間に航路が開かれ、沢山の船が行き来し、様々な物資を運んでいた。その航路の主役を務めたのが、“北前船”と呼ばれた帆船である。その北前船の船乗り達によって、「牛深ハイヤ節」が小木港に伝わり「小木おけさ」として、佐渡島内に広まった。更に、相川の佐渡金山の鉱夫達に広まり「選鉱場節」として哀愁漂うメロディになったとされている。地元では、普通の「おけさ」から、段々とテンポを上げていき「ぞめき」（賑やかに騒ぐ意）となり、更にテンポを上げた「選鉱場おけさ」へと変化していった。
1906 年、「選鉱節」が「相川おけさ」になり、1921 年に開催された「第二回全国民謡大会」で初めて「佐渡おけさ」として発表された。
ルーツとなった「牛深ハイヤ節」は、熊本県天草市牛深で江戸時代から伝わる「元祖ハイヤ節」である。当時、熊本地方を中心に歌われていた「二上がり甚句」を奄美から伝わった「六調」という南国特有のリズムで味付けしたものが、独特の節回しを持つ「牛深ハイヤ節」となったと言われている。「ハイヤ」とは、元々“南風”のことを九州地方では、“ハエの風”と呼んでいたことが由来で、ハエがハエヤになり、やがてハイヤへと訛っていったと言われている。

我々が歌った後、ドン・キホーテ男声合唱団が、３曲演奏した。曲目は、男声合唱組曲“追憶の窓”より作詞三好達治、作曲多田武彦「雨後」、男声合唱組曲“雨”より、作詞大木惇夫、作曲多田武彦「武蔵野の雨」、作詞八木重吉、作曲多田武彦「雨」である。

いよいよ、30 回記念企画の志木グリークラブとドン・キホーテ男声合唱団との合同演奏である。2 団体合わせると合唱団員は、約 30 名となり、やはり歌っていて迫力、音の厚みが違う。

合同演奏曲は、「ピエロ」と「最上川舟唄」の 2 曲である。指揮は、ドン・キホーテ男声合唱団の河田修朗さんで演奏した。

合同演奏の 1 曲目は、清水脩作品集、組曲“月光とピエロ”より、作詩堀口大學、作曲清水脩の「ピエロ」である。

作詩の堀口大學（1892～1981）は、明治、大正、昭和にかけての詩人、歌人、フランス文学者である。フランス詩集「月下の一群」（1925）などの訳詩書は、300 点を超え、日本の文学に多大の影響を与えた。1979 年文化勲章を受章した。堀口大學の処女詩集「月光とピエロ」のピエロは、堀口大學自身ではないといわれている。堀口大學は、私生児ではなく、高級官僚の息子であった。父の堀口九萬一（くまいち）は、東京大学に首席で入学し、在学中に長男が生れたので、大學と名付けた。
清水脩（1911～1986）が作曲した「月光とピエロ」は、1949 年に発表され、当時、世界初の合唱組曲であった。「月光とピエロ」の１番目の“月夜”は、ピエロの孤独な失恋を想起させ、5 番目の“月光とピエロとピエレットの唐草模様”の死への昇華を彷彿させる曲まで、美しい作品になっている。日本の伝統的な音階を基調にして作曲されており、曲の持つイメージが“純粋に”といえるほど“日本的”な作品である。

「ピエロ」の歌詞

ピエロの白さ　身のつらさ
ピエロの顔は　真っ白け
白くあかるく　見ゆれども
ピエロの顔は　さびしかり
ピエロは　　月の光なり
白くあかるく　見ゆれども
月の光りは　さびしかり

合同演奏の２曲目は、山形県民謡の「最上川舟唄」で、作曲は、清水脩である。
「最上川舟唄」は、２００９年(H21)３月１５日に開催した“ファミリーふれあいコンサート”において、志木グリークラブとドン・キホーテ男声合唱団とで合同演奏したことがある。
今回は、ドン・キホーテ男声合唱団のＹさんソロを務め、声量豊かに朗々と“エーヤーエーンヤエーー　エーンヤー　エト　ヨイサノ　マーカショ”と歌い出す。続いて合唱が、“さかーたサー　えぐーーしゃげ　まめーでーろーちゃー”と歌い出す。
この曲は、キビキビ感とレガートの対比がミソである。後半の“ヨーイサーノ　マーカーーカショ　エーンコラ　マーーカショ”と poco　a　poco　cresc　と畳掛けて威勢よく、男声合唱らしく終るところが、この曲の醍醐味だ。やはり、３０名が歌うと男声合唱らしい、迫力ある重厚な演奏が出来、来場者の評判も上々であった。また、近いうちにドン・キホーテ男声合唱団との合同演奏をやりたいものである。

（２nd-Tenor；和氣　敏夫　記）

【第１部】

1. コーロ・アルマ
2. OH:Kappa Funk@Home
3. オカリーナ四季
4. CANTIAMO
5. 志木混声合唱団
6. 八国山低音ブラスアンサンブル
7. ストリングス志木
8. 志木クライネコール
9. コーロ・クラベリートス

【第２部】

10. 琴の会
11. 細田学園高等学校合唱部
12. 志木グリークラブ
13. ドン・キホーテ男声合唱団
14. La Chambre verte Saxophone Ensemble
15. アンサンブル WINT
16. 志木第九の会
17. 志木フィルハーモニー管弦楽団
18. 全員合唱

◆主催/(公財)志木市文化スポーツ振興公社・サマーコンサート実行委員会
◆後援/志木市・志木市教育委員会・志木市商工会・㈱ジェイコムさいたま東上局・すまいるエフエム㈱
◆協賛/志木音楽サークル連絡会　◆MC/瓶子・佐伯　◆ポスター原画/伊藤 緑
●問合せ/志木市民会館パルシティ　Tel: 048-474-3030　HP: www.sbs.or.jp　e-mail: jigyou@sbs.or.jp

第30回サマーコンサートin志木 演奏曲

【第１部】

① コーロ・アルマ（女声合唱）
「みすゞとの旅」より　星とたんぽぽ
大漁　他

② OH:Kappa Funk@Home（器楽）
スーダラ節
カッパDEファンク　他

③ オカリーナ四季（オカリナ）
わかれ（Muss I Denn）
軍隊行進曲　他

④ CANTIAMO（声楽）
喜歌劇「お菊さん」より“セミたちの歌”
オペラ「ラ・ボーエム」より“私が街を歩く時”　他

⑤ 志木混声合唱団（混声合唱）
「心の四季」より　“風が”
アメイジング・グレイス　他

⑥ 八国山低音ブラスアンサンブル（器楽）
Singing All The Day
Earth Dance, Heaven's Payer～大地の踊り　天の祈り～　他

⑦ ストリングス志木（弦楽）
協奏曲集「四季」より　“夏”
ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」より

⑧ 志木クライネコール（女声合唱）
風がフルルン（団の歌）
ひまわりの風

⑨ コーロ・クラベリートス（女声合唱）
ほほえみのために
クラベリートス　他

【第２部】

⑩ 琴の会（邦楽）
夏の日
八千代獅子編曲

⑪ 細田学園高等学校合唱部（混声合唱）
ハナミズキ
雨のち晴レルヤ

⑫ 志木グリークラブ（男声合唱）
からたちの花
佐渡おけさ　他

⑬ ドン・キホーテ男声合唱団（男声合唱）
雨後
武蔵野の雨　他

⑭ La Chambre verte Saxophone Ensemble（器楽）
ブエノスアイレスの四季より　『夏』
トルヴェールの惑星より　『地球』

⑮ アンサンブルWINT（器楽）
アルヴァマー序曲

⑯ 志木第九の会（混声合唱）
オラトリオ「四季」より　Nr.30
椰子の実

⑰ 志木フィルハーモニー管弦楽団（オーケストラ）
「アルルの女」　第一組曲より　「前奏曲」
「鐘」

⑱ 全員合唱
夏の思い出

※楽曲は変更になる場合もございます。

＜イベント情報＞　下記公演チケット好評販売中！　詳しくは市民会館まで（☎048-474-3030）

◆松元ヒロ　ソロライブ◆
会場：ふれあいプラザ
7月17日(月・祝)
開場18：30
開演19：00
一　般2,500円
ユース2,000円（中学生以上18歳まで）

◆ﾐｭｰｼﾞｶﾙ「フロッグとトード」◆
会場：市民会館
7月23日(日)
開場12：30
開演13：00
一　般5,000円
こども2,000円（3歳以上高校生まで）
親子ペア6,000円
出演：川平慈英、鈴木壮麻ほか

◆ﾐｭｰｼﾞｶﾙ「人魚姫」◆
会場：市民会館
8月20日(日)
開場13：30
開演14：00
大　人2,500円
こども1,500円（3歳以上中学生まで）
出演：人魚姫／安達星来ほか